

ゼフィルス族は冬季の野外採卵や母蝶からの採卵テクニックの進歩で、飼育によって大量の美しい個体を得ることができる時代となっているが、少なくとも筆者の学生時代にヒサマツミドリシジミを野外で採集することは夢のまた夢であって、京都には花背の杉峠という名な採集地があり、一度だけ単独で出かけてみたものの、峠一帯が霧の海でやがて雨模様となる天候で断念し、バス便が少ない状況下、親切な軽トラに拾ってもらって京都市内へと戻れたという体験をしている。

June 26, 2015 ヒサマツミドリシジミに会いに行く

チョウとのつき合いが 60 年を越えても、実際に生きている姿を目にしたことがないチョウは多く、ヒサマツミドリシジミ *Crysozephyrus hisamastsuzanus* もその 1 種だが、Facebook 友から得た情報をもとに、たまたま宿泊旅行を組んだ旅程が発生のタイミングとも合うということで、そのポイントへと行ってみた。現地に着いた 14 時半前、すでに 5m ほどの長竿を振り回している神戸から来たという中年男性がいて、さっそくテリ張りのポイントなどを教えてもらう。朝からここにいてすでにヒサマツ 10 頭を捕獲しており、ビデオ撮影を邪魔だと嫌がるそぶりをみせないのが救い。すぐに現れたのはアカシジミのややスレた個体。そして間もなくヒサマツミドリシジミ♂がやってきて高い位置の葉上ですぐに V 字開翅をみせ、太陽光を受けて金緑色がキラリと輝いて見えるが、5m ほど離れた位置の 2cm ほどのチョウをビデオカメラのファインダーに捉えるのが一苦労。



ヒサマツはミヤマカラスアゲハやヒョウモンの一種が近くを飛ばば、たちまちスクランブル飛翔で飛びかかって行き、やがて近くの葉上へと戻ってテリ張りを再開する。初めてビデオに捉えられたのは翅表のグリーンが見えない残念な位置。再び飛び立つスクランブル出撃の瞬間を記録できても、その出撃スピードがただものではなく、高速度撮影のできるカメラでないと静止で切り取れるきれいな画像はとても望めない。それでも気長に待てば距離が遠いのは仕方がないが、なんとかヒサマツミドリの♂だと分かる映像が記録できる。といっても、ここからのスクランブル出撃の瞬間記録も、画面中段にみえる翅表の輝きチラリズムだけ。発生時期と時間さえ合えば低い位置に静止開翅してくれるとのことで、機会をつくって再訪問したいものだ。

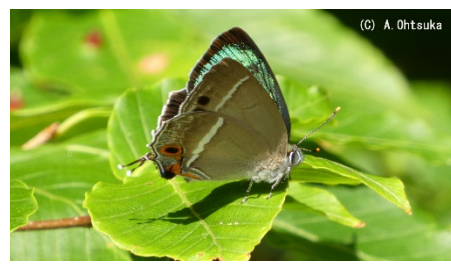
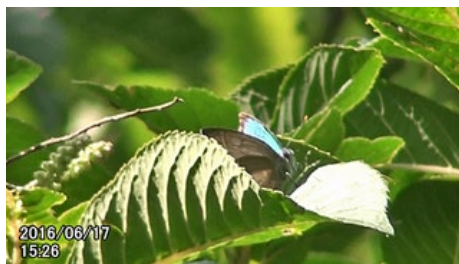
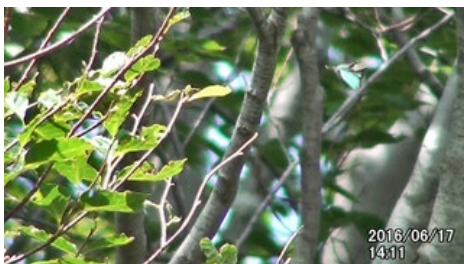


再び飛び立つスクランブル出撃の瞬間を記録できても、その出撃スピードがただものではなく、高速度撮影のできるカメラでないと静止で切り取れるきれいな画像はとても望めない。それでも気長に待てば距離が遠いのは仕方がないが、なんとかヒサマツミドリの♂だと分かる映像が記録できる。といっても、ここからのスクランブル出撃の瞬間記録も、画面中段にみえる翅表の輝きチラリズムだけ。発生時期と時間さえ合えば低い位置に静止開翅してくれるとのことで、機会をつくって再訪問したいものだ。

June 17, 2016 ヒサマツミドリシジミ

ヒメヒカゲの調査に出かけようかと準備を始めたところに「ヒサマツミドリシジミのところへ行っていいよ、但し日帰りだね」との妻の言葉に即刻妥協。現地に着いたのが 13 時 15 分頃。幸いもう発生をしていて、昨年観察できたポイントで飛来個体を待つ。あいかわらず高い位置で撮れる

記録は飛翔個体の証拠写真だけ。あとから来られた井上さんが教えてくれた別のポイントでは、今少し低い位置だが、あくまで下から見上げる状況に変わりはなく、葉っぱのくぼみに止まった状態で全体像が記録できないばかりか、太陽光線を受けて肉眼ではキラリと輝く美しさもとらえきれない。しかも、この個体はすでに新鮮度も低い。一方、井上さんは 1m という至近距離にきた個体を

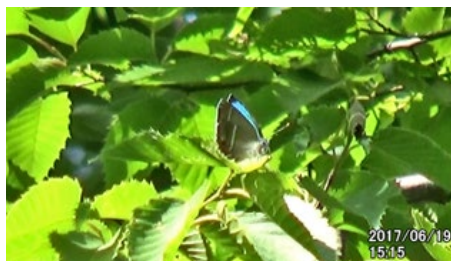
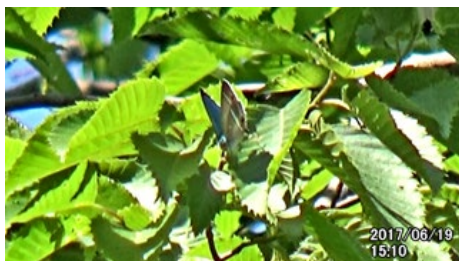


見事に映像記録されていて「月刊むし」の表紙を飾ることになるかもしれないと、うれしそうに動画を再生して見せてくれた。この日は神戸からだという大塚さんとも知り合いとなり、彼のカメラで記念写真を撮ってもらったのだが、2017年6月に井上さんが三川山へと単独でヒサマツミドリシジミの生態調査にいかれ、現地で急逝されるという悲しい出来事があった、この写真が彼との最後の記録となってしまった。



June 19, 2017 ヒサマツミドリシジミに会えた

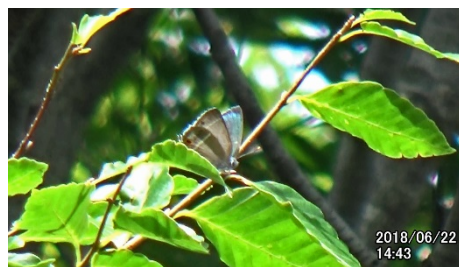
今年は、ヒサマツミドリシジミ *Chrysozephyrus hisamatsusanus* の発生が遅れているとの情報を耳にする一方で、週刊天気予報で全日晴れだという日に注目して、運転を頼む妻の都合がつく本日、兵庫県北部への日帰り遠征を決断。結果オーライで14時過ぎから卍飛翔が観察でき、15時過ぎによろやくビデオカメラの望遠モードでキャッチできる位置に静止する個体を確認。デジタルズ



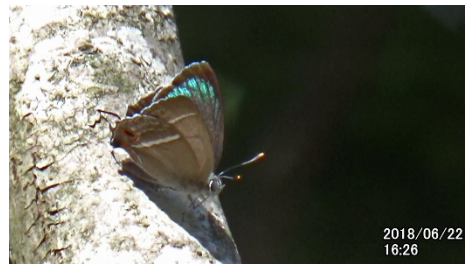
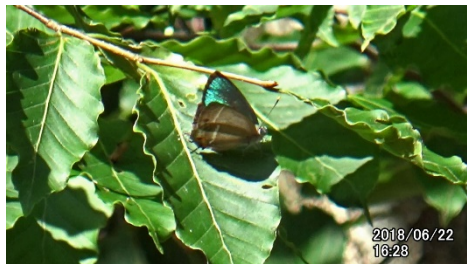
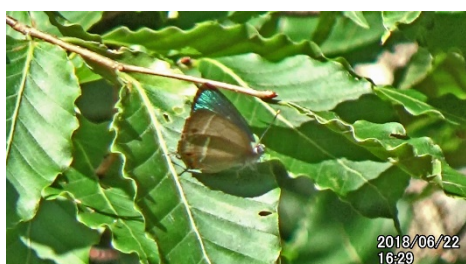
ームではやはりフォーカスが甘く、かといって光学ズームではあまりに小さくしかとらえることができない。仕方なく、デジタルズーム撮影の中から何とか許せる記録を抽出してみたが、所詮、証拠記録の域を出ない。

June 22, 2018 ヒサマツミドリシジミの観察に遠征

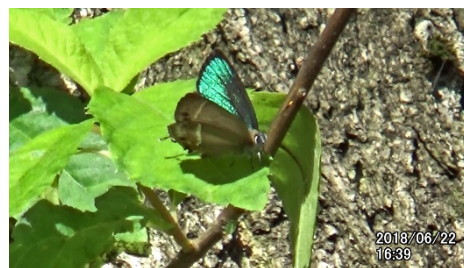
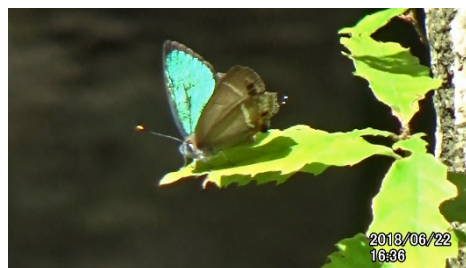
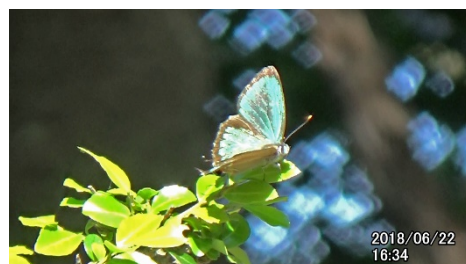
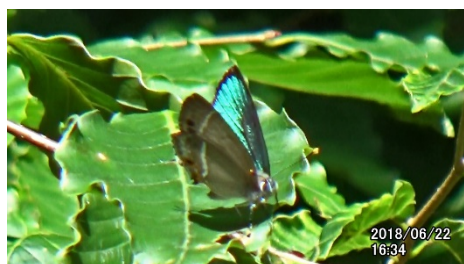
ゼフィルス観察地として大山遠征を考えていたが、天気とホテルの手配との整合がうまくいかず、通いなれたヒサマツミドリシジミに会える遠隔山岳部へと遠征。山頂まであとわずかというポイントに車が1台とまっていて、白ネットの長竿をもつ男性にヒサマツが採れたことを確認。13時半過ぎに到着した山頂部では、やはり長竿の白いネットをもった男性と言葉を交わす。発生のピークを過ぎているのか、いつものテリ張りポイントにくる個体が少なく、かろうじて高い位置でV字開翅をする♂の姿を望遠モードで撮影記録でき、まずは遠隔地までやってきた甲斐があったと胸をなでおろす。ミヤマカラスアゲハとモンキアゲハが蝶道を形成して何度も現れ、クリの花に来るのはトラフシジミとテングチョウ。ミヤマカラ



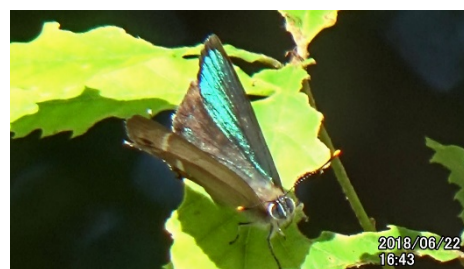
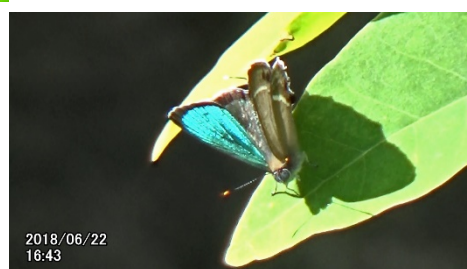
スは汚損個体を一度ネットインして♂だと確認してから放す。路面ではヒメアカタテハがきれいな翅表を見せてくれたりするがヒサマツミがテリ張りをしているのかどうか姿はみえない状態で、近くを飛ぶルリシジミにスクランブル飛翔をしかけるタイミングでどこかにとまっていたことがわかる、そんな時間ばかりが過ぎていく。大阪からお見えのカメラを持つご夫妻もたぶんヒサマツの撮



影目的だろうが、別に撮影ポイントを知っているらしく近くには姿がみられない。16時まで粘っても撮影できるタイミングがないため場所を移す。その途上、京都の友人とみえたOさんとすれ違う。彼とはこの地でなんと3年連続でお会いするという不思議なご縁だ。移動した場所は低い位置

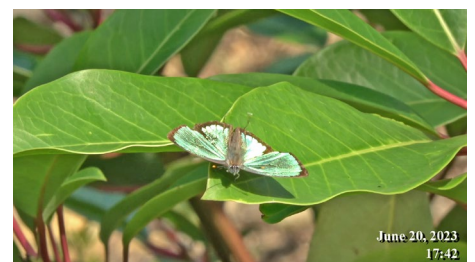
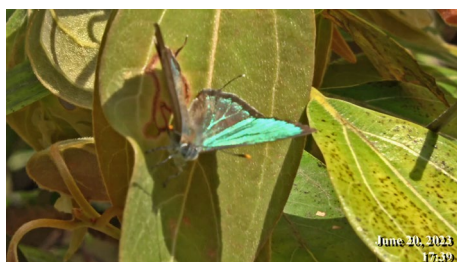
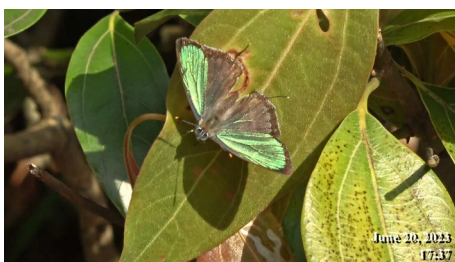
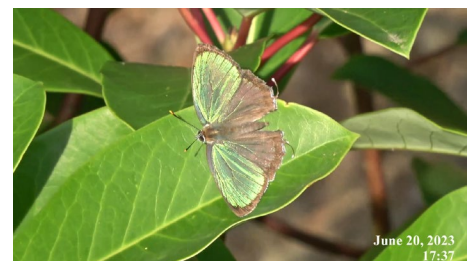
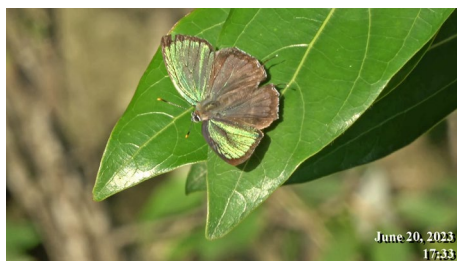
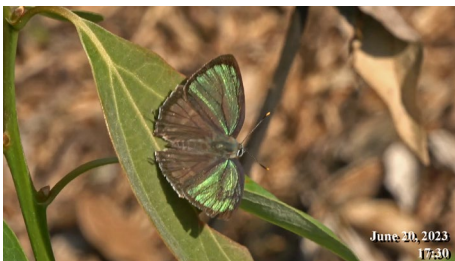
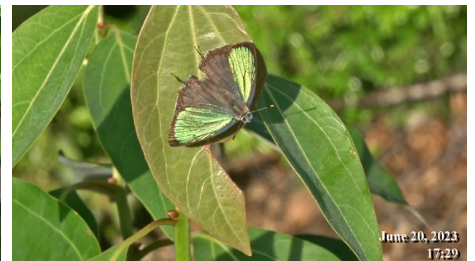
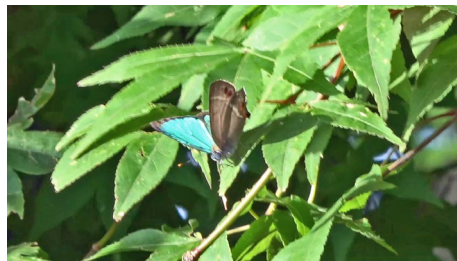
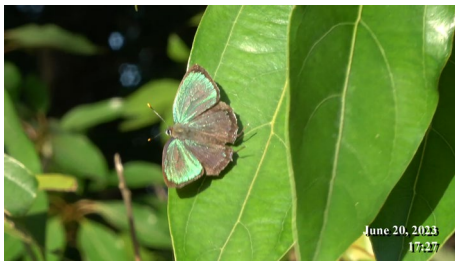


から全体的に日当たりがよく、16時半近い時間帯からすぐ目の前という低い位置で複数の♂が翅表をキラキラと輝かせながら飛び交い、少し待たばすぐに目の前のコナラの幹や枝葉にとまっ



た開翅オンパレード展開となる。ときには♂同志の絡み合いや飛翔が路面に近い場所などで何度も繰り返される。大阪からのご夫妻がカメラを向ける個体に筆者もビデオカメラでズームインしていると、別の個体がすぐ近くで絶好の開翅姿勢をみせてくれるなどまことに贅沢な状況が続く。同じ葉上の同じ位置にとまる♂が同一個体かどうかはわからないが、とにかく撮影しまくるという感じだ。太陽光をまともに受ける態勢の個体は、美しい鱗粉色が白抜けしてしまう。Oさんたちもやってこられ、スマホで撮影する者も含め5人で贅沢三昧の時をすごす。筆者にとってはこんな間近での開翅シーンに出会えたことはなく、今までにみたことがない光景を存分に楽しめた。ところで、ビデオカメラでの撮影記録から切り出した静止画像はフォーカスをあわせたつもりでも拡大表示にはとても耐えられないことが判明。Canonカメラも持っていったのに、同時に撮影すべきだったと悔やんでも遅く、2019年の6月にリベンジを計画する。

来日岳の最初の蝶ポイントには京都、大阪ナンバーの車がとまり、6/7にも来られていた地元の田中氏の車もみる。4人の男性みんなが長竿に大きな網をセットして林縁の木々周りにやってくるヒサマツを狙っている。2人に話しかけて蝶が来なく誰もいないはずだという山頂部でしばらく過ごすことにする。見慣れたポイントで目を凝らしてみているとヒサマツが飛ぶ。陽ざしもあって、高い位置にとまるとすぐに開翅姿勢をとるのがみえる。ビデオカメラの望遠光学モードで視認できるギリギリの位置でなんとか証拠記録がとれる。遠路長距離の運転で蝶タイムを作ってくれる妻にもすぐに成果を伝えると「よかったね」と喜んでくれる。16時半ころには2個体の卍飛翔が展開され、路面にとまる個体も現れるが撮影はできないまま飛び去られる。17時まで粘ってみたが新たな個体が現れる気配がなく、少し下った最初にネットマンがいた場所へと移動すると、幸いみんな帰っていて自分たちだけの時間がとれる状況。まだ陽ざしが届く林縁を見て歩くと、キラキラと翅表を輝かせながらヒサマツが飛ぶ。車の中で待つ妻にこの光景をみてもらいたくて大声で呼ぶが聞こえていなく、緩やかではない坂道を登って誘いにいく。ヒサマツミドリシジミは複数個体いて、ときには卍飛翔や追飛翔をみせるが、すぐに単独で目の前の木の葉上で開翅姿勢を見せてくれる。モミジの葉上で頭を下にして止まると前後翅ともに金緑色に光



り輝き、妻も感動してくれる。多くの個体が前翅だけが光り輝く横向きの開翅姿勢を好むようで、魅力的に美しいエメラルドグリーン輝きはV字開翅の瞬間にだけしかみられない。それでも妻はその美しい色にも気づいてくれて、17時45分まで存分に自然美を楽しんで撤収。